



No.45

# 三商同窓会報

発行所  
 東京都江東区  
 越中島3-3-1  
 東京都立第三商業  
 高等学校同窓会  
 編集 同窓会事務局  
 東京都足立区  
 西竹の塚1-11-2-2004  
 電話(3856)7085  
 (柴崎)



## ごあいさつ

三商同窓会  
 会長 木戸 隆吉

今年FIFA、ワールドカップの年、同窓会の皆様、お元気でですか。益々ご清栄にてご活躍の事と存じ上げます。同窓会は、年々会員の方々の暖かいご支援と、ご協力によって、内容が充実していくように思われ、誠に心強く役員、評議員一同益々張り切っているところであります。

お陰で今年、創立七十八周年を一月三十日に迎え、あと一年六ヶ月後には、創立八十周年となり、平成二十年一月十二日(土)に、ティアアラ江東に於て、記念式典、祝賀会を挙行することに決定しております。

就きましては、費用もかかることです。準備委員会からの分担金に心えるため、会員の皆様のご理解ある拠出金を、今からお願ひしております。

さて学校の方ですが、去る三月十一日(土)に卒業式が行われ、百六十五名の生徒が、社会に、進学に巣立っていききました。卒業生も、二万四千四百五十二名を数えるに至りました。又、四月七日には、柴田哲校長、新しく赴任された副校長、高石公一先生、諸先生方ご列席の中、新入生、二百十六名を迎え、立派な立派な厳粛に、入学式が行なわれ、同窓会からも、会長、副会長、事務局長、前会長大嶽氏が同席し、祝福、歓迎しました。

次に同窓会活動ですが、四月二十

九日に、評議員会を亀戸文化センターで開催し、議題をすべて原案通り可決、承認していただき、その中でも学校への、就職活動費、クラブ活動助成費等にも支出の協力を申し上げ、同窓会としての役目を果たしてまいりました。

七月一日は、同窓会報発行、十月七日(土)「日比谷公会堂」での校歌祭に参加し、百人ステージを目指してがんばりますので、各同期の方々お誘い合わせの上、午後二時三十分迄にご来場下さい。総会は、隔年開催ですので、今年も総会の年です。

十月二十一日(土)「ティアアラ江東」地下一階の大会議室、中会議室で催し、「交流同窓会」と銘打ち、在校生、七十二期、七十三期卒業生は、無料招待、当日は、特別講師として、十九期卒、作家「大村彦次郎」氏に、「文学あれこれ」と題して講演があり、アトラクションも用意し、式典のあと、祝宴に移りますので、ご来場の程お待ち申し上げております。尚会費は、お一人様金五千円です。時間は午後二時より七時頃の予定です。

一方「財団法人東京三商会」の運営には、同窓会役員十一名が参画し、資金の運用、奨学金の配布等にも、配慮し、年々減少する資金に歯止めをかけるべく苦慮しております。

尚最近特に、有名校による同窓会が活発になってきているという新聞報道があり、又中高一貫教育校も有名校としての巻き返しに懸命になっているように見受けられ、三商もご他聞に洩れずその話題になりその一校と称されるに相応しいレベルアップされた生徒、先生方、設備等にも注目されていることは確かです。

今後、同窓会も、相互の交流を深めるために、日帰りバス旅行に力を入れたいと注目しており、今年二月には「横浜中華街、横浜赤レンガ倉庫、ランドマークタワー見学等の親睦旅行は、大評判で来年の三月に「千葉一周」(仮称)で、すすめております。

交流を深める中に、友三つあり「智恵ある友」「ものくる友」「葉土」という言葉があります。私事ですが、昭和四十三年頃、地方から従業員として、中学卒業生を預り、三商の定時に通学させた関係上、PTA会長を十五年間務め、その間三商定時制出身の弁護士「奥山剛」氏と出逢い大変お世話になりました。今でもお付き合いをしております。

二十期卒の「奥野兼宏」氏も静岡で弁護士業を営み、二十二期卒にお一人弁護士の方がいらつしやること、いづれも「ものくる友」と言えます。又三商の漢方医として委嘱された十九期卒の「伊原隆正」氏も、交友を深めており、医師、歯科医師も、かなり社会に貢献しているものと思われまふ。

終りに、同窓会は、活動範囲を広げるために、次の各委員会を設けました。「会員、評議員対策委員会」「総会・OB団体交流委員会」「同窓会報委員会」「校歌祭委員会」「新年会委員会」「会則検討委員会」従ってこれらの委員会が、一致団結して責務を全うできれば、必ずや、すばらしい同窓会として、成長し皆様のご期待に添えるものと確信します。

雄叫びとして、「三商創立八十周年記念式典、祝賀会をみんなで祝おう」その日は、平成二十年一月十二日(日)です。三商の発展と、同窓生のご健勝を祈って、あいさつとします。

## 同窓会総会

日時：平成18年10月21日(土)午後2時  
 場所：「ティアアラ江東」大会議室  
 会費：五千円(ただし第72期、第73期卒業生の皆さんは無料ご招待)  
 記念講演・アトラクション・在校生によるモチーフ・祝宴までを企画した交流同窓会です。

## 校歌祭

期日：平成18年10月7日(土)  
 時間：午後2時30分集合  
 場所：日比谷公会堂

詳細は P.15 参照

# ごあいさつ

校長 柴田 哲



梅雨もあけ、さわやかな季節となりました。卒業生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より母校の教育活動にご理解・ご支援をいたたくとも、昨年度は、商業高校における経験も実績もない私に対し、様々なご支援をいただきました。心より厚く御礼申し上げます。

さて、本校の昨年一年間を振り返ってみますと、全力で駆け抜けたその時の様子が目に浮かびます。紙面を借りましてご紹介いたします。

昨年の同窓会々報誌にも掲載させていただきましたが、私は「目指す学校像」として、「これからの社会における魅力ある商業高校として、地域に愛され、深く信頼される学校としての充実を図る。」ことを掲げさせていただいております。

これからの社会における魅力ある商業高校とは、一体何ぞや？

私は、都民から望まれている魅力ある高校とは、生徒の進路実現を100%保証できる学校と考えています。そして、商業の専門性を活かした

た進路実現を図れる商業高校が魅力ある商業高校であると考えます。

そこで、商業教育を幅広く「ビジネス教育」と捉えると、輸入や輸出に携わるビジネスマンや商品の流通・販売に関する企業人、さらに、お金の流通・管理に関する経済人等、日本の経済を支える重要なポストは、本校のような商業高校を卒業した社会人が担うべきです。

本校の教育課程を昨年度点検し、課題を明確にしました。大学受験に対応できる学力や資格取得が課題です。昨年度は、国語と英語の語学に重点を置いた教育課程の再編成を試みました。さらに、社会や理科の授業時間数も増やし、社会人としての教養を十分に身につけられることも盛り込みました。

そして、今年度は、商業科目の再編成に取り組んでおります。「簿記」と「パソコン」にウエイトをかけ、大学受験にも、就職にも対応できる教育課程を再構築しております。「三商の卒業生は、帳簿付けに間違いはないし、パソコン技術に優れた仕事ができる」と言われたいと願っております。

先日も教育実習を行った卒業生から、「在学中に日商簿記2級をとっておけば良かった」という手紙をいただきました。資格取得のみには走ることは、けつしていいとは思いませんが、社会に即戦力として役に立つ技術を身につけさせたいと考えています。

そのために、常に社会のニーズの把握と教育課程の点検は欠かせません。卒業生諸氏からの的確なアドバイスを今後ともお願いいたします。

さらに、ビジネスは、昨今、国際化や情報化、サービス化等、ものすごいスピードで進化しています。進化している社会の中で活躍するには、受身的な態度や行動ではなく、積極的な態度や行動が必要です。

本校では、特別活動の充実も図っております。学校行事や委員会活動、部活動等における活動は、自ら進んで、物事に取り組む姿勢や態度を育成することができそうです。

昨年度は卒業生の様々な会に出席させていただきました。様々な先輩諸氏からご助言をいただきました。その中にも行事や委員活動、部活動等の話が多数ありました。昨年度の部活動の実績は、次のとおりです。



生徒昇降口

部も商業大会において優勝、女子バレーボール部も地域の大会での優勝や東京都高体連主催の大会において上位に進出しています。さらに、柔道部は、東京都公立高校大会のみならず東京都高体連主催の大会においても、個人及び団体で上位に進出しました。

文化部ではブラスバンド部や簿記部、箏曲部、情報処理部、華道部、茶道部が地道な活動を継続的に進めています。

今年度の第一学年では四人に三人の割合で部活動に取り組んでいきます。昨年度に劣らない実績が十分に期待できます。

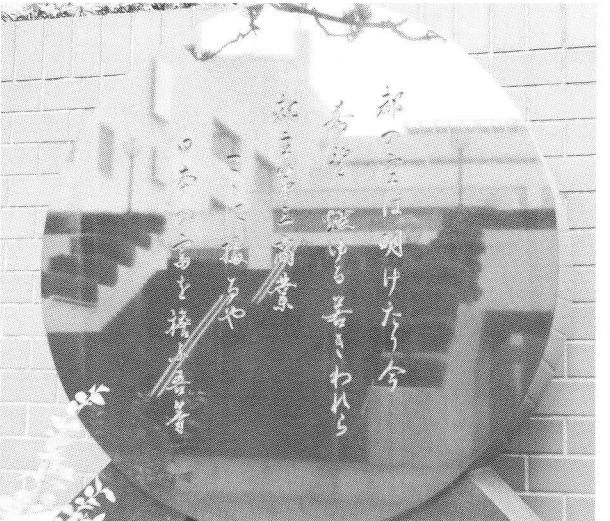
また、今年度の三商祭は、十月七日(土)と八(日)です。「それゆけー三商祭ー」をテーマに準備に取り掛かっております。より多くの卒業生の皆様のご来校をお待ちしております。

さらに、昭和三年に創立された本

校は、平成十九年度に満八十歳を迎えます。今年度、創立八十周年事業の準備委員会を立ち上げました。委員長には同窓会会長の木戸隆吉氏にお願いいたします。同窓会の役員の方々にも様々な委員をお願いしております。周年行事に向け、同窓会会員の方々からご支援をいただくことが多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

平成二十年一月十二日(土)の午前に記念式典、午後には祝賀会を「ティアラ江東」(予定)にて実施の計画を立てております。次年度には、ご案内状を送付することができるとかと思っております。ご出席よろしく願いたします。

最後になりましたが、同窓会会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



改築記念碑  
書 12期 古暮正雄氏

《教育課程表》

1年 幅広い教養と商業の基礎

国語総合	現代社会	数学 I	体育	保健	芸術	コミュニケーション I	オラル	英語 I	キャリアガイダンス	ビジネス基礎	簿記	情報処理
3	2	3	3	1	2	2	2	3	1	2	4	3

29単位

習熟度授業………国語総合、数学 I、英語 I、簿記  
 少人数授業………体育、芸術(音楽 I、美術 I、書道 I から 1 科目選択)  
 ティームティーチング…情報処理

2年 一般教養の深化と商業の専門性

現代文	世界史 A	数学 A	選択化学 I	選択生物 I	体育	保健	家庭総合	英語 II	総合選択	商業選択
3	2	2	3	2	1	2	2	2	2 × 2 = 4	4 × 2 = 8

29単位

習熟度授業………英語 II  
 少人数授業………体育、総合選択 (20 講座から 2 講座選択)  
 ティームティーチング…商業選択 (6 講座から 2 講座選択)

商業選択  
 会計、原価計算(会計系)  
 商品と流通、マーケティング(流通系)  
 ビジネス情報、文書デザイン(情報系)

3年 興味と進路に合わせた多くの選択肢

現代文	選択地理 B	選択世界史 B	選択日本史 B	選択理科総合 B	選択理科総合 A	体育	家庭総合	英語 II	総合選択	総合実践	課題研究
3	3	3	3	2	2	2	2	2	2 × 4 = 8	3	3

29単位

習熟度授業………英語 II  
 少人数授業………体育、総合選択 (48 講座から 4 講座選択)  
 ティームティーチング…総合実践

**教育課程**  
(平成18年度入学生用)

生徒の進路希望を100%保証するために、大学入試にも就職試験にも十分に対応できるカリキュラムへと改定しました。本校のカリキュラムの特徴は、次のとおりです。

- ①生徒の学習到達度による習熟度別授業や少人数制授業、複数の教員のチームティーチングによる授業等、生徒一人ひとりの適性・能力に対応した授業
- ②商業(ビジネス)の専門性を深化させる2年次の「商業選択」(4単位 × 2講座履修)
- ③大学入試に対応した授業や幅広い教養を身につける授業等、進路希望や興味・関心に対応した2・3年次の「総合選択」(2年次4単位、3年次8単位)

時間割例 (平成18年度1年生)

	月	火	水	木	金
1	国語総合 (習熟度)	情報処理 (T T)	英語 I (習熟度)	オラル I	ビジネス基礎
2	現代社会	簿記 (習熟度)	国語総合 (習熟度)	数学 I (習熟度)	情報処理 (T T)
3	簿記 (習熟度)	数学 I (習熟度)	情報処理 (T T)	芸術選択 (音・美・書)	数学 I (習熟度)
4	キャリアガイダンス	オラル I	ビジネス基礎	芸術選択 (音・美・書)	英語 I (習熟度)
5	英語 I (習熟度)	体育 (少人数)	現代社会	簿記 (習熟度)	保健
6	体育 (少人数)	国語総合 (習熟度)	L H R	簿記 (習熟度)	体育 (少人数)

時間割例 (将来、会計士・税理士を目指す大学進学希望の2年生)

	月	火	水	木	金
1	現代文	数学 A	英語 II (習熟度)	保健	商業選択 (会計)
2	世界史 A	選生/化	現代文	選生/化	商業選択 (会計)
3	総合選択 (英語)	商業選択 (会計)	総合選択 (国語)	商業選択 (原価計算)	数学 A
4	総合選択 (英語)	商業選択 (会計)	総合選択 (国語)	商業選択 (原価計算)	選生/化
5	商業選択 (原価計算)	体育 (少人数)	世界史 A	家庭総合	英語 II (習熟度)
6	商業選択 (原価計算)	現代文	L H R	家庭総合	体育 (少人数)



外国語科授業風景



コンピュータ専用教室

平成十八年度 定例評議員会報告

「評議員会」の機関としての位置づけ

同窓会会則の改正に伴い、同窓会の運営、維持方法が大きく転換してまいりました。それは当会の運営、維持を母校依存型から離れて、自主運営に転換したからです。この結果、平成十一年度以来の課題であった、①事業内容の充実、②財政の健全化、③組織・運営の民主化から見直しを敢行し、会長指導型から機関自治型へ移行し、ようやく軌道に乗り始めたのは事実です。現実には評議員会が事実上の意思決定機関となり、従前の理事会にとって替わりリーダーシップを牽引することとなった経緯です。

具体的には下記に示した「委員会分担表」を参照してください。六つの委員会にそれぞれ年間活動の企画・実行の責務を委ねて、年度末に結果及び成果の報告を集約することとなりました。

定期評議員会報告

四月二十九日(土) 亀戸文化会館にて本年度の定例の評議員会が開催されました。

◆出席者数：議決権総数(評議員の有在期数) 六十九 委任状含む議決権数三十八 会則の規定による定足数の確認及び賛否の明確化を図るため、今回の評議員会では評議員席と理事長席を試行的に識別のうえ議案の審議を行いました。

◆変更事項：今回は会則等の変更事項はありませんでした。

◆決議事項：前年度の活動及び会計等の報告事項と、平成十八年度の事業計画案、会計予算案の承認事項はいずれも左記の通り可決されました。

◆役員選出事項：理事一名選出及び評議員三十七名承認の件は新たに理事として渡邊秀明氏(四十八期)が選出され、評議員総数は再選された評議員を併せ別表の通り百五名となりました。

(一) 昨年度の主要な動き

十七年五月二十一日 定例評議員会

九月 十八日 OB団体交流会

十月 二日 第十三回校歌祭参加

十八年二月 十一日 新年懇親会

二月 二十六日 OB・OG・在校生交流会

(二) 今年度の事業計画について

十八年四月二十九日(土) 定例評議員会

七月 一日(土) 第四五号同窓会報発行

十月 七日(土) 第十四回校歌祭

十月 二十一日(土) 同窓会総会開催

十月下旬 『母校創立八十周年記念行事』準備会議

十九年二月上旬 理事・評議員新年会

三月中旬 OB・OG・在校生による交流会

三月下旬 会計監査会実施

委員会分担表

平成18年5月26日 編成

17年度会計報告及び18年度会計予算について

会員・評議員対策委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 土方 敏之 (副会長), 富張 勝三 (副会長), 岩瀬 和子 (理事), etc.

総会・OB団体交流会委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 鬼沢 好男 (副会長), 浅野 修一 (監事), 尾坂富美子 (理事), etc.

新年会委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 富張 勝三 (副会長), 河原 啓介 (理事), 篠崎 清 (理事), etc.

同窓会報委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 柴崎 晴雄 (理事), 杉本 光男 (理事), 岩瀬 和子 (理事), etc.

会則検討委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 富張 勝三 (副会長), 河原 啓介 (理事), 柴崎 晴雄 (理事), etc.

校歌祭委員会

Table with 3 columns: 期数, 氏名, 役職. Members include 大嶽 清 (顧問), 岩瀬 和子 (理事), 杉本 光男 (理事), etc.

Main financial report table with 4 columns: 年度, 報告内容, 金額, 前年度比. Includes income and expense sections for 17 and 18 fiscal years.

各期別運営協賛金

(作成日：平成18年4月29日)

期	協賛金額(円)
2	—
3	—
4	100,000
5	20,000
6	60,000
7	40,000
8	70,000
9	60,000
10	65,000
11	15,000
12	45,000
13	20,000
14	60,000
15	60,000
16	60,000
17	120,000
18	—
19	455,000
20	45,000
21	45,000
22	45,000
23	35,000
24	100,000
25	60,000
26	65,000
27	—
28	60,000
29	40,000
30	—
31	—
32	—
33	—
34	113,585
生徒会	15,000
役員会	
合計	1,873,585円

上記協賛金は、平成12年4月1日以降納入された累計金額です。

[協賛金に関する方針]

母校創立80周年記念式典事業が、平成20年1月12日(土)に挙行されます。この事業に協賛するため、各期になお一層のご協力をお願い致します。

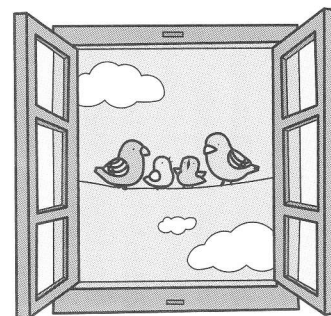
平成18年度 理事・評議員名簿

評 議 員

No.	期	氏 名	No.	期	氏 名
1	2	橘川 達郎	54	37	小山 晴美
2	4	黒須 康介	55	37	梅原 典子
3	5	好川 榮一	56	38	三浦 秀一
4	8	榎本 三郎	57	39	吉崎 正俊
5	8	平田 助治	58	40	磯波 孝
6	9	安藤 興一	59	41	早船 恵三
7	10	荻野 文雄	60	41	森本 仁
8	10	武田 一朗	61	42	木内 茂二
9	11	中島 健作	62	42	早船 裕子
10	12	吉岡 鶴義	63	42	磯村 弘美
11	13	今関 隆一	64	42	小久保佳代
12	14	大山 高志	65	43	高谷 敏幸
13	14	江田 栄介	66	43	木戸 克明
14	15	浅野 義治	67	44	大島 敏生
15	16	森川 山麓	68	45	長島 昭洋
16	16	金田 耕一	69	46	吉富 孝行
17	17	飯田 幸男	70	47	加藤美喜雄
18	17	鹿倉 謙蔵	71	47	藤波喜代美
19	18	児玉 透	72	48	澤田 昇悟
20	19	伊藤 昭雄	73	49	宇田川浩一
21	19	小野 正實	74	49	寺内 啓人
22	20	菅波 良司	75	50	土谷 武
23	20	富岡 輝彦	76	51	柴崎 孝雄
24	21	平林 慶雄	77	52	大澤 武志
25	21	将基 慶子	78	53	遠藤 賢一
26	22	才木 健之	79	54	福士 智
27	22	越路 正巳	80	54	北代 淳子
28	23	池田 実	81	55	初山 優
29	24	福原 伸行	82	56	篠原 彰
30	24	岸 和子	83	57	久保田武則
31	25	秋長カヨ子	84	58	風見 修一
32	25	井上 嘉久	85	59	飯塚 秀昭
33	26	清田 実	86	60	小柳 輝高
34	27	水戸部 滉	87	61	安藤 隆
35	27	山田 和弘	88	61	斉藤 精一
36	28	鷺 嘉雄	89	62	村山 亮
37	28	小林 慎典	90	63	山下裕美子
38	29	柳田 保之	91	64	佐々木信次
39	29	濱地 昭雄	92	65	小野崎寿代
40	29	伊藤 武志	93	66	平井 宏明
41	30	藤倉 久男	94	67	秋元 真一
42	30	落合 清秀	95	68	柿沢 愛
43	31	今泉 清	96	68	田所 可織
44	32	片山 健	97	69	熊谷真由美
45	33	歌門 俊雄	98	69	大久保慎悟
46	33	佐久間保人	99	70	今井小百合
47	33	池田 幸雄	100	71	奥山 岳
48	34	露野 幸男	101	71	熊谷 美子
49	34	佐藤 幸子	102	72	梶山 宜弘
50	35	宮下 恵介	103	72	深田 顕
51	35	長谷川 誠	104	73	木村 海渡
52	36	中川 竹治	105	73	桂田 良
53	36	林 祥一			

役 員

No.	役 名	期	氏 名
1	会長	19	木戸 隆吉
2	副会長	21	富張 勝三
3	副会長	25	鬼澤 好男
4	副会長	29	土方 敏之
5	理事	20	河原 啓介
6	理事	22	篠崎 清
7	理事	24	尾坂富美子
8	理事(事務局)	25	柴崎 晴雄
9	理事(事務局)	26	岩瀬 和子
10	理事(事務局)	26	杉本 光男
11	理事(会計)	27	辻井 正巳
12	理事(会計)	28	田端 彰
13	理事	28	伊澤 宏祐
14	理事(事務局)	31	三浦 康二
15	理事	34	三川 廣志
16	理事	37	平野 淳一
17	理事	48	渡邊 秀明
18	理事	68	中村 公彦
19	監事	21	浅野 修一
20	監事	22	鶴ヶ谷義徳
21	監事	26	古田 勝一
22	顧問	12	大嶽 清



# グループ 活動報告

## 第二回三商OB団体交流会

**実行委員長 二十五期 鬼澤 好男**  
 平成十七年九月十八日(日) 池の端東天紅に於いて第二回三商OB団体交流会を開催致しました。ご来賓として母校より柴田哲校長先生のご臨席を戴きご挨拶の中間窓会の母校のクラブ活動に対する支援に対し感謝の言葉を述べられクラブ活動加入率等三商の現況並びに将来への目標等お話を戴きました。

第一回交流会に続きご参加下さいました三商会計人会、魚市場二水会、三史会、剣友会、校歌祭参加者の会、同窓会役員会等に加えて新たに二期小堀信夫さんをNHKアナウンサーとして輩出した放送部OB会、日展に四年連続入選をされた二十三期川田晃一さんを始めとする美術部OB会の三文会(会長十八期秋長政吉さん) 日本珠算界でその名を揚げた三珠会(会長二十一期浅野修一さん) 歴代生徒会会長を中心とするヤングOBOG会(会長六十八期中村公彦さん) 等のご参加を戴き七十名に達する各会に所属する同窓の皆様にご出席を戴きました。

二十六期古田勝一さんの司会進行により始めに三商同窓会初代会長故岡田一郎様を始め鬼籍に入られた同窓の皆様に対し黙祷を捧げました。木戸同窓会会長、柴田校長先生、十四期宇田川芳雄同窓生代表のご挨拶

に続き、八十八歳になられ益々お元気な三期田中徳治大先輩の音頭により乾杯の盃を高々と上げました。

懇親交流会に入り各会、各団体の現況報告等二時間半を超える和やかな第二回交流会となりました。

この様な同窓会の各行事(総会・OB団体交流会・校歌祭)を通じ多数の同窓生のご参加、ご協力を戴きながら同窓会の組織の強化、活性化に取り組んで参りたいと思えます。

この交流会は各分野で組織され活動されて居られる各会、各団体の交流、親睦を図るため総会との隔年毎の開催を予定しております。

次回平成十九年には更なる新しい団体の参加を期待しております。

## 三文会展を開いて

**三文会 幹事代表十八期 秋長 政吉**  
 本年一月十六日(月) から一月二十二日(日) までの一週間。江東区文化センター展示室で久しぶり(十七年振り)に、三文会展を開きました。

恩師横山文夫先生がご他界あそばされて以来十一年、会員一同会の大黒柱を失ったショックで当会も休会状態を何年か続けて参りました。

気抜け状態の当会にその後も心優しく見守って下さった奥様に再び親睦の芽を芽生えさせて戴き、三年前の正月、取り合えず身近な会員だけでもとご息を交えての親睦会を開きました。

久しぶりの奥様とご息を囲む宴席での語らいに、出席者の心も五十余年の思い出に深く浸り、話が弾ん

で空白の数年は消え、かつての和氣あいあいの三文会の心を膨らませ、翌年の正月に会員一同に親睦会を呼び掛けましたところ、二十名を超える会員が集い、かつての三文会らしい和を取り戻し、翌年(平成十六年)の親睦会の席上、

「どうかね、こちらで久しぶりに三文会展をやりませんか?」と軽い気持ちで提案したところ、「やろう」「やりましょう」のかけ声で満場一致。

こうして今年の一月に一年掛りの準備、企画で実現したのが、第十一回目の三文会展です。かつては母校の文化祭は元より、銀座のつむぎ画廊、区内図書館、また江東文化センターでの恩師横山先生の個展との同時展覧会等、想い出が浮かびます。

三商卒業以来の五十余年の伝統ある三商美術部OB会展は先生の奥様を中心に、大きく幅広い企画で、会員は元より、会員家族も含め、幅



広い展示企画で絵画、彫刻、工芸、詩歌、趣味や芸能迄を含む幅広く、楽しい会を多数の方々にご覧戴きました。

タウン誌「深川」を皮切りに、読売新聞、東京新聞に写真入りで記事紹介され、地域広報のテレビ「江東ワイドスクエア」では三日間に及ぶ取材のうえ、一月二十九日〜二月一日迄、一日四回、四日間にも及ぶ十六回の放映をして戴きました。会期中は雨の日、雪の日と有った中、当事者で有る私達も驚く程の盛況さで嬉しい悲鳴を上げた程でした。

「良い展覧会ですね」  
 「皆さんの年代を超えた、先生や奥様との交遊、素晴らしいですね」  
 「三文会展を観させて戴いて、人の和の大切さを、今の時代にしみじみと感じさせて戴きました」  
 なかには「羨ましいですね」等と言って下さった方も居られました。

この様に盛況裏に終えられた久しぶりの三文会展も会員一同の力添えは元よりですが、偏に恩師の忘れずの出来ぬお人柄と、優しい眼差しで暖かく見守り、包んで下さった奥様のお陰だと思っております。

ご覧戴いた方々のお声の中に今の時代に忘れかけた、人と人との絆の大切さを、三文会展を通じて改めて聞かされ、私達自身、お互いを大切にしながら心新たにしておくことを強く感じさせて戴きました。

十六期卒から四十五期卒の方達の出展者は元よりですが、諸都合で出展出来なかつた会員諸氏から協賛支援、また会員以外の方々からの心暖まる、多大なるご支援等、本当に有り難う御座いました。

同窓会を含む学校関係、タウン誌各新聞社、江東区文化センター、区広報関係の江東「ワイドスクエア」のテレビ等、諸関係の方々にも厚く御礼申し上げます。

## 三商会計人会報告

**幹事 荻野 弘康(第二十二期)**  
 本年一月二十八日正午より、上野池の端の東天紅において、賀詞交換会を開催した。

ご来賓には、柴田校長、木戸同窓会長、柴崎事務局長、恩師の東霞時雄先生などのご出席を賜り、それぞれ、ご懇篤なご挨拶をいただいた。

三商会計人会は、平成四年十月五日に東天紅にて創立総会(会長に昭和十二年卒の好川 榮一先生を選任)を開催し、爾来十四年余を経過している。

創立総会には、恩師の清田榮一先生も臨席賜り、心温まるご祝辞をいただいている。

当会は、三商卒業の公認会計士や税理士を中心に組織され、創立時は百五十名近い会員を要し、正に、商業高校として珠算部と並ぶ天下の三商の名に恥じない団体である。

母校と連絡を密にし、市民講師の派遣(現在、石川昭会員が担当)や機関誌「都の空」の発行等を行っている。

母校あつての三商会計人会です。木戸会長はじめ、同窓会役員のご活躍に心より御礼を申し上げますとともに、母校三商のますますの発展を心より祈ります。

三水会活動報告

土方 敏之

十七年十一月二十六日に、筑波への鉄道開通にのって、昔の賑わいを取り戻しつつある浅草の、粋な造りの店並を、右に左に目をやりながら、ちよつと外れた路地にはいりゃあ、柳がぼつんと人まちげに立っている。

そこに老舗のふぐ料理店『三角』がある。のれんをくぐると「いらっしやい」:

黒光りする階段をどしどし上がって障子を開けると:三水会の綺麗どころが目をくらくらしながら座る畳みと座布のせまき。

喋ってしゃべって飲んでのんで食べて、腹一杯になったところですかり暮れた、浅草の闇にお手手繋いで皆帰ろ

独りぼつちの我が輩もおくる柳に別れを告げて心暖かく家路につきました。

明けて、二月二十一日、総会そして新年会を、これ又昔の料亭の街、神田多町にある『その田』にて開催。総会は各報告を承認して続いて新年会。

藤枝会長「昨年は三水会の活動よりも同窓会の行事に合わせた結果になりました。三水会としては、組織的にも会員の若年層がいないので、現役員が一致団結して先輩諸氏の参加を求められたこととなりますが、そこには三商魂、いや三水会魂がしっかりと根付いておりますので安心しております。ご協力お願いいたします。」との新年の挨拶がありました。

続いて渡辺照雄君の乾杯により懇親会は幕開けになりました。

三水会の大きな砦であった大橋秀雄元会長が十七年七月十二日に旅立ってしまった。「自分の母親が長生きなので、私も似ているので長生きするよ。」足が悪くなった時には、「母がやはり足が悪く家にすうつといたが、長生きしたから僕も大丈夫だよ」と、言っていたのに居なくなってしまった。中央区議会議員、東京区議会議員、引退してから中央区の監査等々公職に就いて「よく体を持つなあ」と、いつもそのバイタリテイには感服した。市場では若い時から業会の若手リーダーとして、青年会の活動を通じ青年学級やその輪を六大都市の青年活動にひろげたり、その活動話しは数限りない。もつといろいろ教えて貰っておけば良かったと、今悔やまれる。

三水会の会長に就任してからは旅行を多く活動にとりいれて中央区の本栖湖ピラへのバス旅行、水上温泉への旅行と、夫婦参加の旅を通じて大きな、三水会ファミリーと称される程の、仲のよい集まりとした。

もう辞める。もう辞めるの言葉にもう少し。もう一回と、結局二十年も会長をして頂いてしまった。

大橋秀雄会長 ありがとうございます。ありがとうございました。ゆっくり休んで下さい。

日までの長い間お勤めいただいた古暮正雄先生のご冥福をお祈りするため、三史会会員が年に一度先生のご命日に東蔵前の西福寺に参集します。

三史会（現会長は二十八期伊澤宏祐）とは史学部部のOB会のごことで、昭和五十年代初めの頃に結成され、六十一年六月には古暮先生のご退職をお祝いして浦安の「功德林」において盛大なパーティーを開き、それ以降二十五期〜四十期までの合同研修旅行を、先生を中心にして行われるようになりました。

私が三商に在学中の史学部は部員数不足によりクラブとしての活動を断念、「歴史研究会」として活動していましたが、二十五期生が中心となり再び部活動として認められ、先生の在職中はずっと続けられて参りました。

三史会募参会のこと

中島 弘敏 (二十五期)

八月三十日、今年で三回目の募参会が近づいています。私共、三商史学部の顧問として定年退職を迎える

先生の晩年に、各地（横浜、埼玉、小田原、市原、川越等）に歴史探訪の小旅行を年代を超え、和気あいあいと楽しみました。

先生がご体調をお崩しになられ、中断されることもありましたが、毎年の正月二日には先生のお宅に各自が散々伍々集って楽しい一日を過ごしたことも永い間続けられていました。

このようなことからもお分かり戴けると思いますが、先生がお亡くなりになられて、その祥月命日には多くの三史会会員が募前に額つき、焼香合掌し、その後菩提寺近くの料理屋「今井」に集い、先生が生前お好きだったカラケに興じたり、先生と各自との関わり、エピソード等を奥様を囲んで披露し合って一刻の楽しみ

い時間を過ごし、来年の再会を約し散会致すのが常でございます。

「来る者は拒まず」が先生の御心です。今年も八月三十日が近づいてきました。三史会会員だけでなく誰方でも結構です。お時間があればお出掛け下さい。

三史会事務局 栗原 (二十六期)  
電話 ○四九一―二九四―六三二五  
(写真は、最後の史跡探訪となった「川越の旧跡巡り」での撮影。平成十四年四月七日)

今年の六月開催で百二十一回目を数え、会員数も今では四十名を超え、るまでになりましたが、一時は存続の危機にありました。仕事が忙しく四名しか参加できず、ようやく一組で行った時が一回だけありました。

その後、三十四期同期会で会員増員をはかり、バスケット部の後輩達にも声をかけ危機を乗り越えました。それから賑やかでさらに楽しいゴルフ会になっていきました。

三十一年目のTCSゴルフ会

笹本 功吉 (三十四期)

三商卒業後、八年目の昭和五十年九月に第一回を千葉・総成カントリーで行ったのがスタートでした。ゴルフ好きの七名が発起人となり年間四回を開催目標にして、一度も中止することなく五十八歳をむかえる現在も継続中です。



ここ数年前からは、十組の開催地確保（安くて・近いゴルフ場）に少し苦労しています。同窓の方々にゴルフ場を紹介していただけると大いに助かり誠に有り難いのですが。

「継続は力なり」。三商三十四期生を軸に、同窓の絆を大切にしてください。これからも元気で、あと十数年七十七歳まで続けたいと思っております。

節目の記念大会では、一泊旅行・バス貸し切りゴルフそして北海道ゴルフツアーなど企画しました。大会史上唯一の「ホールインワン」もありました。今ではご夫婦で参加が五組を数え、そして恩師の宇佐美・宮坂先生もご参加いただき益々盛会になっていきます。

今年六月開催で百二十一回目を数え、会員数も今では四十名を超え、るまでになりましたが、一時は存続の危機にありました。仕事が忙しく四名しか参加できず、ようやく一組で行った時が一回だけありました。

その後、三十四期同期会で会員増員をはかり、バスケット部の後輩達にも声をかけ危機を乗り越えました。それから賑やかでさらに楽しいゴルフ会になっていきました。

節目の記念大会では、一泊旅行・バス貸し切りゴルフそして北海道ゴルフツアーなど企画しました。大会史上唯一の「ホールインワン」もありました。今ではご夫婦で参加が五組を数え、そして恩師の宇佐美・宮坂先生もご参加いただき益々盛会になっていきます。



# 各期 活動報告

## ◆二期会 大平龍夫

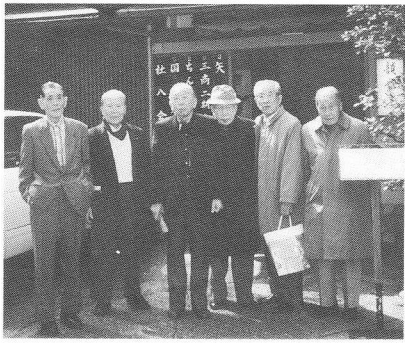
同窓会の御仕事をしておられて大変の事と思います。御手紙を頂き御礼申し上げます。

二期のみなさんと年に二、三回位集まって居ります。みな元気で会にこられます。

私も姉が二人妹が七人の大家族ですから、おほめの言葉を頂いておりません。

木材を苦小牧の王子製紙から仕入れて芝方面の材木屋に売っております。湯浅、野崎を通して輸出もしております。

平成十八年六月拾日



上野の「韻松亭」にて (右端が大平龍夫氏)

## ◆十七期会行事報告

飯田幸男

### ●一泊旅行

平成十七年五月二十九日三浦海岸マホロバ・マインズ泊。今回は安近

短旅行を実施。近いのは良かったが

真夏の海水浴場並みの混雑ぶりにびっくり。参加はいつものメンバーの十三名。宴会場に吉本興業の若手グループの飛び入りもあり騒がしかったが、幹事部屋に到着き飲み直し、在校時代の昔話に時間を忘れ話が弾んだ。翠朝干物を土産に帰途につく。

### ●校歌祭

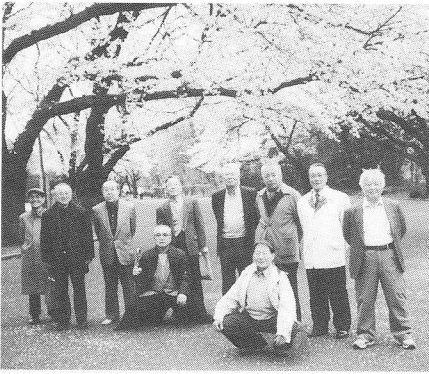
平成十七年十月一日、日比谷公堂参加の後、前年同様富国生命ビル地下「こだわりやま日比谷店」で例会。参加十四名。大声を出した後のビールは格別。今回は他期と合同で一段と盛り上がった。

### ●忘年会

平成十七年十二月十一日。於三菱養和会栗鴨パルテール。参加十七名。生田、岡野、次山、辻諸兄ひさしぶりの参加もあり盛況。この一年の無事を喜び、来年の息災を祈りながら、鍋を囲み歓談。

### ●お花見

平成十八年四月二日三鷹の国際キリスト教大学キャンパス内で観桜近郊の穴場で満開、花見客も少なくゆつくり堪能。三鷹の駅前の「桜庵」で花見酒。一同大満足。



### ●訃報

福地義直氏

平成十七年十二月二十三日肝臓癌で逝去。在学中「原ちゃん」の愛称の通り広島で被爆。最近墨田立花に原爆の実物大の模型や写真を展示し、被爆の体験を語り、原爆症認定を求める訴訟に参加していた。ご冥福をお祈りいたします。

## ◆十九期会 伊藤 昭雄

平成十七年七月十日に上野池之端の東天紅で開催した同期会は、三年ぶりの開催であった。前回は卒業五十周年を記念しての開催で七十名強が参集したが、今回は六十余名と減少、かつての百数十名のときを思うと経年と共に健康上の理由や物故者の増加等で参加者の減少が避けられないことは残念である。

ところで、同期会には悲喜交々がつきものとも言え、卒業後五十三年振りに現れた旧友(山田勝美君も居れば、一年も前から今回の開催を指揮・準備していた代表幹事藤井康三郎君が、平成十七年三月の幹事会に顔を出したのを最後に六月十六日に幽明境を分かつとは、思いもしなかった。

当日は開式後、物故者への黙祷・同窓会長でもある木戸隆吉君の挨拶等の式次第を経て懇親会に移り、一人一分の近況報告が終わると、会場のあちこちで談笑の輪が盛り上がり、その中でも旧制中学時代の写真を見ながら今昔を語るグループの姿が印象的だった。宴の盛り上がりがピークに達したところで閉会時間となり、校歌の斉唱に続いて同期の

故・多田宏君作詞の応援歌を声高らかに歌い上げ、次回での再会を約し散会。その後はグループ毎に二次会(三次会?)

なお、我々十九期は毎月十九日(土休日は平日に繰り下げ)に大関守君経営の「そば処大関庵(丁良両国駅西口回向院寄り)」を定例会場として集まっているが、ただ単に集まって飲むだけでは不健康とのことから、自分でウォーキングクラブを運営している中野貞三君の企画・案内で五、六kmの史跡めぐりの散歩会を立ち上げ、二十七回実施して来ている。同期以外の方女性の参加もあって、和気藹々と楽しんでいる。

## ◆卒業五十周年記念同期会

池田 実

二十三期同期会が久しぶりに開催された。

平成十八年三月十一日(土)午後三時より上野池之端東天紅にて、三商卒業五十周年記念の節目の時を選び盛大に開催された。

前回、浅草において開かれてから十年近くブランクがあったため開会一時間前から同期生が集ってくる程のにぎわいであった。

定刻三時より、元NHKアナウンサーを勤めた同期小堀信夫君(三組)の司会で進行した。

まず、お世話になった先生方、同期生の物故者に対して全員で黙祷をささげた。

出席者一組九組までの百二十名に対し、代表幹事の鈴木進輔君(二組)より、本日開催に至った経緯と各組幹事のご協力に感謝する趣旨の挨拶があった。



つづいて本日唯一のご来賓としてご出席いただいた、当時七組の担任で社会科を教えてくださった山田泰義先生が壇上に上り全員に紹介され、同期生代表より花束が贈られた。ここで、一組の服部弘暎君の発声で一同乾杯のグラスをかがげ、久しぶりの旧友との歓談に入った。宴なかば、同窓会幹事である池田実(九組)より、同窓会の近況について報告があり、総会、校歌祭への参加の呼びかけがあった。

このあと、各組ごと全員壇の上に入り、クラスの代表より近況報告、出席者の紹介があり、クラス別の記念写真を撮影した。

予定の二時間半もあつという間にたち、全員肩を組んで校歌を歌い、四組の栗山尚樹君の挨拶をもって閉会となった。

尚、今回は平成二十年三月に、全員の古希を祝って開催されることになってる。

また、母校三商八十周年記念の協賛金として、当日の会費の中より三万五千円を供出させていただきました。



この日三商の卒業式にあたったため、ご出席できなかった同窓会会長木戸隆吉様の祝電が司会者より披露された。

連絡の手違いにより、当日参加できなかった方に各クラスの幹事をご紹介いたします。

- 一組：鈴木博 服部弘暎
  - 二組：鈴木進輔 飯島雄三
  - 三組：岩佐美男 木島栄次
  - 四組：栗山尚樹 黒川治良
  - 五組：飯沼良允 加賀美 明
  - 六組：田中公太郎 柿沼勇夫
  - 七組：小暮清 芳川弘
  - 八組：高沢敏一 浅見勝衛
  - 九組：池田実 鈴木恒男
- (二十三期 池田 実)

### ◆二十五期会

諸伏 守

平成十七年十月一日(土)皇居に近い神田一ツ橋の「如水会館」にて、第九回同期会を開催致しました。出席者百五名、うち女性二十三名が出席、恩師岩永達郎先生(三組担任)、中川甲子三郎先生(五組担任)が参会して下さいました。

両先生には、毎回ご出席して戴き、感謝の念に耐えません。前々回の平成十三年十月開催時に、今後同期会は隔年開催にしようとの申し合わせにより、今日に至った次第です。

会場は中川先生が卒業された一橋大学の所縁のある「如水会館」としました。中川先生は趣味の碁を打ちに週一回のペースで当会館に来られるので、大層喜んで戴けました。

我々の世代は還暦を超え、古希に向かう中間点を通り過ぎ、この二年の間にも残念ながら鬼籍に入られた

方々が数名おり、ご自身の病氣、また親御さんの介護等で出席したくても出席できない方々の思いを汲み取って、元気に会場に集えた仲間との再会を大いに楽しみました。席上、七組担任の出雲正明先生のご近況として以下の報告が披露されました。

『同期会が近づき、準備で何かとお忙しいことと思います。ご苦労様です。さて、今日は朗報をお届けします。同期会の折にでもご披露いた



ただければ幸いです。この夏、私は朝方人間に変身し、毎朝五時起きして机に向かっていきます。若い頃は二晩でも徹夜して、ものを書くような夜型でしたから、大変身したことになります。

清々しい明け方の空気は頭の働きをよくするように思えます。そのうち何か成果が現れるだろうと思っております。なんとこの老人に入選と受賞が舞い込んできたのです。ひとは『与謝野晶子短歌文学賞』の

入選、今ひとつは、『第一回永井隆平和賞』の受賞。前者は受賞は出来ませんでした。選歌集に収められました。格式の高い文学賞なので入選は喜びでした。後者は畏敬する永井博士の名前を冠した第一回平和賞論文に受賞者として名を残せたのは光栄であり、感激でした。『お年を召されて尚、努力されている先生のお姿に敬服させられざるを得ません。』

### ◆二十九期活動報告

会長 堀原 修八郎

平成十七年十一月二十日開催の同期会は、五名の先生のご臨席を賜り、同期生出席百二十二名、総数百二十七名の出席を頂き、ホテル銀座ラフイナート(京橋会館)に於いて盛況のうちに開催することができました。

平成十八年一月二十七日、新年会を開催して、当日の記念写真と最新名簿を申込者に発送して、同期会の仕事全て終了しました。

次回は来年秋に開催を予定しており、濱地昭雄新会長と渡辺勝新事務局、各クラス幹事により運営されます。

### ◆三十一期

#### 「還暦と同期会」

三浦 康二

昭和三十九年度卒業の第三十一期



生は現在も約三百五十名の住所録があり今回全員が、六十歳の還暦を迎えた事から二年前の同期会に引き続き本年二月十二日に品川の新高輪プリンスホテルに於て「還暦を祝う会」と同期会」という事で百三十五名の同期生と四名の当時の担任の先生が出席されて盛大に開催されました。

今回高輪プリンスホテルで開催した理由は、昭和三十九年三月八日に都立三商を卒業した時の謝恩会の会場が高輪プリンスホテルでしたので、是非還暦の良き思い出と当時の夢と希望に胸をふくらませて共にすばらしき旅立ちを誓い合った仲間達と同じ会場でもう一度集い合せて、母校を喜び、恩師に感謝をして良きと友との再会をよるこび時の流れも忘れて有意義な同期会となりました。写真は全体で写しきれないのでクラス毎の写真の1コマです。(恩師と共に)

### ◆同期会報告

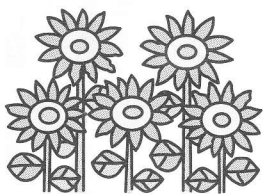
三十四期 三川 廣志

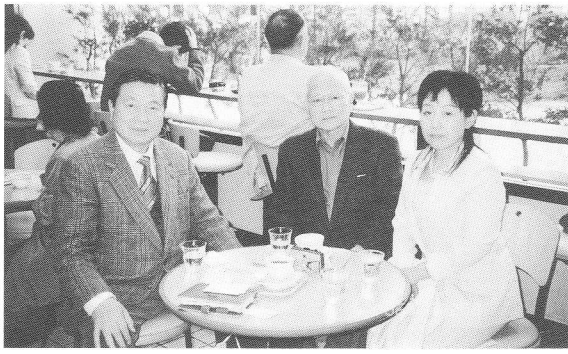
平成十七年九月十日(土)、両国の第一ホテルに於いて第六回同期会を開催致しました。準備期間は、六ヶ月。各クラスの幹事三十名の協力のもとに開催日には一六二名が集い、松原・宇佐美・宮坂・高木・岩切・森先生方にはお元氣なお姿で御出席いただき、会を盛り上げて戴きました。感謝!

同期会の内容は、他界された恩師同期の仲間への黙祷から始まり、在籍中によく耳にしたビートルズのBGMをバックに歓談・記念撮影・有志から寄贈戴いた品々の大抽選会を盛大に行いました。

そして校歌応援歌を大合唱し、次回は六十歳を迎える四年後の再開を誓い開会となりました。

尚、出席者から同窓会に七万三千余円の協賛金が寄せられました。夜八時三十分を終宴した後、二次会をビアステーション両国で行いましたが、話足りない仲間がなんと二三五名、皆揃って三商時代の面影に戻り、にぎやかにそして和やかな時を過ごしました。





中央が大村彦次郎氏、左は木戸同窓会会長。右が聞き手の西巻悦子

# 対談

## 大村彦次郎氏にお会いして

都立青井高等学校国語科

西巻悦子 (三月まで三商勤務)

大村彦次郎氏にお会いできたのは同窓会長木戸様のご好意により三月二十五日(土) 亀戸カメリアプラザにおいてございました。春らしく晴れた暖かい午後でした。すべてが鮮やかに輝いて、ガラス越しの街路樹が私の緊張と高揚をそっとなだめてくれているかのように揺れていました。

講談社の元名編集長で、「文壇うたかた物語」、「文壇栄華物語」、「文壇挽歌物語」のご著書があり、私はこれら三部作を読んで、ひとりの作家が世に出るまで、こんなに多くの物語があるのかと、感動と畏れを強く感じておりました。三商から早大へ進学なさった頃は戦後の混沌とした時代であったこと、下町の名門校であった往事のことなど、木戸会長や同窓の藤井孝保氏との回顧談は耳新しく面白く拝聴いたしました。

すべて正確に聞き取れたかどうかはともないのですが、次の言葉だけは今も耳に響いて忘れません。作家が有名になろうと無名であろうと大村彦次郎氏にとってもっとも関心があり、大切にいらつしやることは、その方の『志の高さ』だと繰り返しおっしゃっていらしたことです。

その後、書面でご質問申し上げたことに対してご丁寧なるご回答をいただきました。感謝をこめてそのままたまご報告申し上げます。この几帳面さ誠実さが、多くの文人や作家に接してこられた方のご人格の高さだと敬服いたしました。

Q: 本所・深川という江戸文化の伝統を色濃く保っていた風土が生徒に大きな影響を与えているということが話題にりましたが、具体的にどのようなことがあるのでしょうか、三業地というだけではびんときませんので手がかりとして何か思い浮かぶことがありでしたらお教え下さいませ。

### 大村彦次郎氏からの「回答」

「私の三商時代は戦後の混乱期に江戸文化の伝統とか継承どころではありませんでした。商人の子弟であった私はそれを期待して入学したのですが、日本人誰もが日々の生活をしのぐことに精一杯の時代でしたから、文化・道徳・歴史といった抽象的価値の最も低く、むしろ経済的スノビズムの横行している時代でした。昔はよかったです、とよく言いますが、敗戦後についてはその言葉は適用できません。あえて、善意に見るなら、何とか焦土から立ち上がろうとするヴァイタリティーにあふれていた時代とでもいえましようか。」

Q: イギリス流教養主義・吉澤イズムが校風にあったことが三商の教養程度を高めたと存じます。この点は検証可能ですが、教養主義を支えるという意味で図書館に思い出がかりでしょうか？  
在学当時の御自身の読書のために、図書館をご利用なさったのでしょうか？  
教師陣で貴方様の読書に影響を与えた方はいらしたでしょうか？

### 大村彦次郎氏からの「回答」

「図書館の本は時折、利用させてもらいました。教養・娯楽に欠けた時代ですから、図書館はある意味でオアシスでした。小西先生という経済担当の男の先生が図書館の主任で、生徒の質問に答えておりました。英語の太田浩先生、歴史の古暮正雄先生が生徒の読書指導に応じてくださいました。太田先生から伊藤整の文学について、古暮先生からは唯物史観について教わったことは今でも忘れません。」

Q: お話の中で、精神的に一人前になる年齢が今よりずっと低かったとおっしゃっておいででした。今は、十二、三歳は曖昧な年齢で、問題行動が多発すると、危険視されていますが、貴方様の頃やそれ以前の年代の方にはその年頃は一人前の働き手として、社会的認知度も一挙に高まる時期で、一人前の青年として生きることが自覚せざるを得なかったらしいことがお話の中で、よくわかりました。つまり大人だったのですかね。そのような心性がどうして培われるとお考えでしょうか？

### 大村彦次郎氏からの「回答」

「学校教育は『理想』がなければなりません。『理想』を継続することが『志』です。それでは理想とは何か。古い言い回しですが、人間はパンのみにて生きるに在らず、というフィロソフィを堅持することで、『ホリエモンの時代』と言われる現代ではなお一層必要と思います。精

神の涵養とでも言いましようか。そのためには十代の男女を指導する教師のあり方が大事だと思います。具体的には読書の習慣を若い人たちに持たせることです。」

以上がお答えいただいたことです。

今、あらためて震えるような感動を覚えております。私は「フィロソフィを堅持する」ことを「焦らず、急がず、挫けることなく」と言っていたことを終生忘れることなく生きてゆきたいと存じます。

最後に、同窓会とご縁を作ってくださった十期・山崎順三氏に感謝をささげます。

### 大村彦次郎氏のご経歴

一九三三年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部・文学部卒業後、講談社入社。「小説現代」「群像」編集長を経て、文芸出版部長、文芸局長、取締役を務める。その間、野坂昭如、井上ひさし、長部日出雄、村上龍、村上春樹ら多くの作家の文壇デビューに尽力し、また池波正太郎「仕掛人藤枝梅安」、笹沢左保「木枯し紋次郎」などの評判作を企画し、ヒットさせた。

著書に『文壇うたかた物語』『文壇栄華物語』『文壇挽歌物語』『ある文藝編集者の一生』『ある文士の生きかた』『時代小説盛衰史』(いずれも筑摩書房)。

『文壇栄華物語』は第十八回新田次郎文学賞、『時代小説盛衰史』は第四十一回長谷川伸賞を受賞。

# 母校三商 訪問記

十二期 大門 博史

会長)の森田達郎さん、十二期で当時札幌通産局長(後に日中経済協会理事長)だった諸口昭一さんの四人で三商会をしたことがいい思い出になっています。

懐かしい学校に着いて、先ず初めに吉岡さんが教えて下さったことですが、校門にある「東京都立第三商業高等学校」と彫られた金属製の校名が、同期の故古暮正雄さんの揮毫によるものだそうで、私はしばらくその場を立ち去り難く校名板を自然に何度も撫でていました。

古暮さんは吉岡さん同様有名な立派な方で、永く三商の先生をなさいましたが、書道で日展に六回の入選を果たし、剣道は五段、歴史も担当なまり、まさに文武両道の方でした。

私がささやかな自宅を建てました時に、「友の憂いにわれは泣き、わが喜びに友は舞う」の詩の中から「舞」の書を立派な掛軸にして下さいまして、あたかも古暮さんが舞って下さっている感じで、我が家の家宝にさせていたいております。心温かい友情に有り難いことと感謝しております。

私の記憶にある三商敷地内の昔の建物配置は道路側に玄関、職員室、教室を主とした三階建ての主屋があつて、その両端からコの字形に建物と講堂、一方には柔道場と剣道場があったと思います。運動場は建物に三方を囲まれた部分の敷地と当時「川岸運動場」と呼んでいた敷地とを合わせて豊洲運河まで続いた結構広いものでした。

久しぶりに訪れた現在の配置は、道路に面して運動場があつて、運動

中の生徒諸君の声も明るく私達を迎えてくれているようでした。

運河の近くに校長室をはじめ、職員室、教室が配置されていて、昨年の校舎の外壁が塗装改修され、校内もよく整理、清掃されていて、全体に明るく清潔感のある雰囲気でした。さらに運動場の建物側に防護ネットが張られていて安全面の配慮もよく行き届いていました。

吉岡さんのお供をしたお蔭で昨年

日比谷高校からご赴任の柴田哲第十七代校長さんにお目にかかり、校長室で親しくお話を伺うことが出来ました。

私達が低学年の頃、当時の男子校では女性の先生は珍しかったのではないかと思います。三商には英語の広瀬先生と英人で英会話を教えて下さったメイ・グラハム先生のお二人がいらつしやいました。話がグラハム先生におよびました時、柴田校

長先生が書棚から出して下さった「三商創立五十年史」に教壇にお立ちになったグラハム先生の授業風景写真が載っていました。私は背が小さかったので最前列の中頃の席から先生の目の表情や鼻や口や身振り手振りを直下から見上げるようにして教わったものです。グラハム先生は太平洋戦争開始の頃ご退任なさいました。

校長室の天井に近い壁面に初代校長の吉澤徹先生を初めとして、私達十二期が直接お世話になりました第二世代校長の今村直人先生、そして私達をフルネームで呼んで下さり後に第五代校長になられた清田先生、第十六代校長の青木先生までの歴代の校長のお写真が飾られていました。

学校長の柴田哲先生が同窓会報四号に「目指す学校像」として三つ上げていらつしやいます。「一つ目はこれからの社会における魅力ある商業高校として、地域に愛され、深く信頼される学校としての充実を図る。二つ目は生徒一人ひとりの人権を尊重しながら、基本的生活習慣を確立し、個性の伸張と健康の増進を図る。三つ目は基礎学力を身につけさせ、生徒一人ひとりの能力や適性等を開発し、社会に主体的に貢献できる人材の育成を図る。」私も素人ながら全く同感です。皆様のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

(ハルビン工業大学・横浜国立大学卒 日本銀行・東光電気KK勤務退職)



越中島通りより豊洲橋方面を望む

(※注) 岡崎さんが日本電気の札幌支店長時代に大門が日銀本店から札幌へ出張しました折、十期で当時日銀札幌支店長(後に東京短資(株)社長、

私達十二期の多くは今年の誕生日で満八十歳になります。一九三九(昭和一四)年四月に三商に入学し、本来ならば一九四四(昭和一九)年三月に五年制を卒業ですが、太平洋戦争中でしたので、三ヶ月早めて一九四三(昭和一八)年一月に繰り上げ卒業した時代の生徒です。先日、同期の吉岡鶴義さん(申し上げるまでもなく卒業時に日体大と早稲田大双方に合格されて、大学卒業後、母校三商の体育科の先生として三四年間勤務なさった敬愛する立派な方です)からお誘いを頂いて、同期の岡崎茂さん(※注)お二方のお供をして懐かしい母校三商を訪問しました。

# 母校訪問

十二期 吉岡 鶴義

「梅は咲いたか、桜はまだかいな」  
 江戸小唄の一節と思うが、今年の梅は厳しい寒気の為に例年より遅く開花した。処が桜の開花は例年より三、四日早いと云う迄あまり経験したことのない事情はよく理解出来ない。

東京地方は三月二十二日、靖国神社の桜から開花宣言があり、三月三十日と云えば丁度満開の頃である。我々十二期生は久しぶりに同期会をやるうと計画を立て、その準備委員会を門前仲町、東天紅深川支店ですると決めた。集会時間は午後二時であるが、その前に母校三商訪問する事を考え、一人では寂しいので同期生二氏を誘った。一人は大門博史氏、彼は三商人学時から優等生、ハルビン工大(旧満州国) 横浜国立大卒業後、日本銀行の数々部長まで勤め上げた素晴らしい人物。もう一人は岡崎茂氏、彼は三商人学時、下谷二長

町に住む米屋さんの息子、私は下谷御徒町、近所の友達として仲良しだった。三商卒業後、日本電気KK(現NEC)に入社、札幌支店長まで勤め上げた、これ又素晴らしい人物である。ご両氏とも心よく賛同下され、三人で訪問することとなった。私は三商卒業後、日本体育専門学校(現日体大)へ進学卒業したが、昭和二十二年、終戦直後、東京大空襲で家は焼失、仕方なく父の故郷、富山県立高校に就職した。五年程経った頃、母校である三商二代目校長、今村直人先生から、母校に帰るよう説得された。恩師でもある今村先生からでは、お断りする事は出来ず、上京して父の知人宅に下宿、三商で後輩達のお世話をさせて頂くこととなった。

以来昭和六十年迄、何と三十四年もの間、教職にあり、私にとつては学生、生徒時代の五年間を含めると実に三十九年間、人生の大半は三商生活であった。今年、齢八十歳を迎えるに当たっては一汝、感慨深いものがあり、様々な出来事や頭の中をぐるぐる巡るのである。

通い慣れた学校への経路の筈ではあるが、友人等と待合わせの時間より一時間も早く門前仲町に到着してしまつた。その辺りが少々感覚ボケであろうか。仕方がないので、この辺の、且つての卒業生の店を訪ねて見ようと想い立ち、先ず、目前にある伊勢屋、深川不動尊、仲店参道入り口にある大きな老舗の和菓子屋さんである。店内を覗くと、沢山の店員の中で店主らしい老人が忙しそうに働いている。老けたなあ、と思いつつ(自分はもつと老けていること

は柵に上げて)「本間君、今日は」と声を掛けた。暫く彼はキョトンとして私の顔を見ていたが、私から「元三商の吉岡です」と言うと、やつと気付き、「あ、吉岡先生ですか」と答が返つてきた。「やあー本間にお久しぶりですネ」と仕事の手を休めて会話が弾む。彼は本間莊一氏(二十二期)彼の奥さんも同期の美枝子さん。「弟さんはどうしてる」

弟の捷悦君も二十四期生でバドミントン部であった。「支店の方に店を構えているが、今日は本店の手伝いに来てヨ」と奥の作業所に声を掛けると飛んできた。「わあー先生お久しぶり」と手を差し出した。私も同時に手を出し握手をしたが、何やらスルスルするので離して見ると、手にご飯粒が一杯ついていて。奥で作業中、慌て、出てきた為であった。それ程の感動には私も本當に嬉しかった。柴田校長への手土産に最中を買つたら、五百円も値引きして貰つた。

それでも尚、待合わせの時間まで時間があるので本間君の推めもあり、参道中程にある、小磯象牙店へ寄つた。小磯昌彦君は本間捷悦君と同期で、同じバドミントン部主将。店へ入ると直ぐ出てきて「嬉しいです」と挨拶された。彼の夫人も現れて丁寧な挨拶。夫人とは彼等の結婚式以来の対面であった。老舗の落ち着いた店構えではあるが、今はワシントン条約で象牙は輸入禁止の筈。尋ねた処、小物なら問題ないと聞き安堵した。昔話になるとアツと言う間に時間切れ、返つて手土産等を頂戴して店を出た。教員冥利とは、この様なことかと感謝の気持一杯であつた。

駅前まで三人揃つた処でタクシーを拾つて母校玄関前に到着。アプローチを進むと柴田校長が出迎えてくれた。アプローチ右側に植えられた桜は満開で美しかったが、何か今一である。柴田校長から大島桜と紹介されたが、昭和五八年校舍改築時、私も改築委員の一人であったが、当時植え込んだ苗木が染井吉野では無かつた事を知り大変なショックを受けた。間もなく私は退職した為、今日まで知らずに来た事を本當に悔しい想いであつた。

校歌モニュメントの前に来た、同期であり同じ三商と云う職場の同僚でもあつた、親友古暮正雄氏の寄毫が燦然と春の日射しに輝いていた。我々三人は、この偉大な友を一年失つた事を想うと、暫く声もなく佇むばかりであつた。

隣りを見ると、六日町山寮の石碑が立つていた。昭和三十七年から平成七年頃まで新潟県六日町にあつた山寮前庭にあつたシンボルを、その名残りとして本校へ持帰つたと云う。財団法人三商会、唯一の固定資産として、多くの生徒が毎年、学年行事に利用、又、夏はクラブ合宿活動、冬はスキー教室と私にとっては沢山の思い出が凝縮されている山寮であつた。

バブルが崩壊して財団の経営が困難になつた為と云うが、この山寮を失つた事は慚愧の念に耐えない。寄毫は五代校長、私達の恩師でもある清田栄一先生。柴田校長に促されて校長室へ入ると、運河を挟んで対岸の景色が一変しているのに驚いた、数々の高層マ

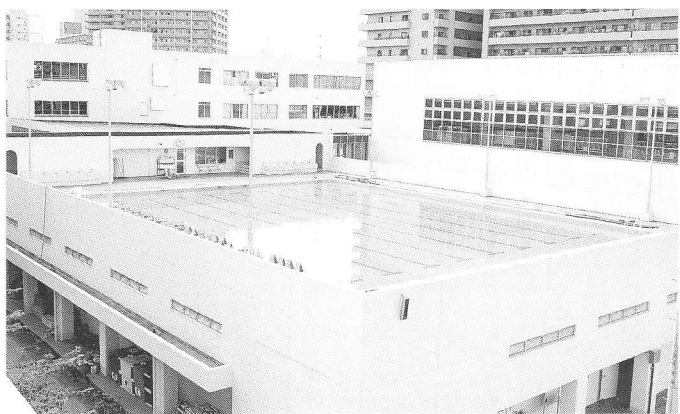
ンションが林立、旧石川島造船所跡には、最近、芝浦工業大学のキャンパスが建築されたと云う柴田校長の説明に時代の移り変りを感じさせられた。柴田校長より熱心に学校の現況、三商教育の抱負等の説明を聞く、一方我々の学生、生徒時代の思い出話、昨年日比谷高校、副校長から抜擢された、若い優秀な五十歳代前半の校長と我々とは親子程の年齢差、多少話の誤差は止むを得ない。しかし柴田校長は、教育に情熱を燃やす、素晴らしい先生。一方我々先輩に対しても礼儀正しく、立派な人物。この校長なら安心して後輩を任せることが出来るかと確信して校舎を後にした。

## 追記

三商の校歌について一言。作詞前田夕暮、作曲山田耕輔と云えば、超一流の作詞家、作曲家である。これを依頼した人は恐らく初代校長吉沢徹先生であろうと思うが、他に類例のない、昭和新时代に相応しい、新しい商業教育(リトルジェントルマン育成)を目指しての気概と心意気を感じさせる名曲である。

最近になって、旧制第一高等学校(現東大)等、明治大正時代の卒業生がやっている校歌、寮歌祭に習つて、旧東京府立校の校歌祭に三商同窓会も前会長大嶽氏(二十二期) 現会長木戸氏(十九期)が提唱・毎年盛大に行われ大変結構なことと思つている。

昭和五十六年、財団法人三商会所有の川岸運動場を都に売却、校舎改築となつたが、新校舎の始業チャイムを東京都は、何処の公立学校でも使用されている「ビックベン」(英



体育館棟・プール棟（昭和57年3月改修）

（元都立三商教諭・千葉経済短大講師・東京ランゲージスクール校長）

「国会議事堂の鐘」を設置しようとした。当時改築委員の一人でもあった私は猛烈に反対した。我が日本はイギリスの属国でも無ければ、植民地でも無い。立派な歴史と伝統のある、そして誇り高い文化先進国の筈。何故ビックベンで授業を始めなければならないのでしょうか。職員会議に於ても私の意見が採択され、現在の三商校歌チャイムの誕生となった。

永い三商生活の中、お世話になるばかりの私が、唯一母校に残せる物が出来たことを、今でも有難く感謝している次第である。

# 歩く

十期 荻野文雄

百歳の天寿を全うされた京都清水寺貫主の大西良慶師の語録に「人生は求道の旅であり、歩くことは人間の本質である」という箴言しんげんがある。

脳科学者の大島清博士は、「歩くことは健康法の王様だ。足腰を鍛えるだけでなく、脳を活性化させ、ストレスを解消する」と書かれている。また聖路加国際病院理事長の日野原重明博士は、「大腿でさっさと歩いてもらんなさい。姿勢がよくなり、少なくとも歩いている間は心配ごとや悩みを忘れ、気分が変わります」と説かれている。

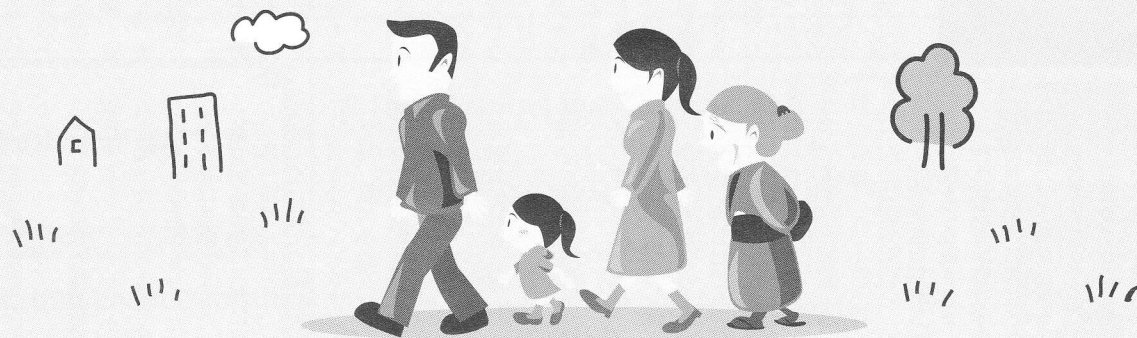
現代人は自動車の普及もあって歩くことが少なくなった。老人や身体不自由者のために設置されたエレベーターを若者達が我が物顔で利用しているのが目につく。見苦しいだけでなく、このようでは永い人生を生き抜くための基本となる体力を養うことはできないと思う。戦前の三商は、初代校長、吉沢徹先生の教育方針で歩くことが強調された。

また時代状況もあって、生徒は毎日十キロぐらい歩くのが普通であった。その恩恵もあって同期の集いでは八十歳を越してもかくしゃくとした人が多い。

横浜在住の小生は、近くの丘陵、川辺、街中を約一万歩歩く。空を見上げ悠然と流れる雲に魅惑される。野にけなげに咲く小さな花に感動する。路地裏に漂う生活の息づかいに安らぎを感じる。生きる意欲が湧く。

親愛なる母校後輩諸子、三商の伝統ともいべき歩くこと（ウォーキング）を楽しんで、体力、気力を強め、可能性に富んだ豊かな人生行路を往かれますことを。

（平成十八年三月二十九日記）



佳作 論文

世界平和への願い

神奈川県 出雲 正明

太平洋戦争末期の、米軍による原爆投下は人類史上嘗てない大惨事であった。一九四五年八月六日広島、八月九日長崎と、原爆は日本の二つの都市を相次いで瞬時に破壊し焼滅した。日本はこれに屈し、八月十四日、連合国のポツダム宣言を受諾し、降伏した。

ここに、広島に原爆を投下した米軍の爆撃機「エノラ・ゲイ」の副機長故ロバート・ルイス大尉が投下直後に機内で記した貴重な手記がある。その中に「My God what have we done (ああ、我々は何をしてしまったのか)」と罪の意識に激しく戦く悲痛な言葉が残されている。この手記は、出撃前にNYタイムズの記者に依頼されていたものというが、恐らく当時は発表されず、ずっと後年の二〇〇二年三月二十七日にニューヨークで競売に出されることになり、その前日ロンドンの競売商クリスティーズの提供で、直筆記録の一部が報道された。読売新聞の夕刊でこれを読んだ時、私は人間の本性は善であると直感した。電撃的な啓示であった。夙に孟子が唱えた性善説は、ここに現代人それも現役第一線の軍人によって裏付けられたのを認識した。そしてこれが私に万人が良心の所有者であることを信じさせ、永遠の世界平和を希求させる力となった。

これより先、一九四三年十二月に、それ迄の徴兵猶予を停止された私は、学徒兵として入隊した。敗戦の年十月に召集解除され父母の待つ家に帰ったが、敗戦のショックは大きく、心身の疲労は容易に回復しなかった。後年、その頃の自分の姿を振り返って、私は次の短歌を歌帳に残している。

人を撃ちしこと無きが唯一の救ひなり  
学徒兵たりし青春無惨

戦争は私に無惨な青春の記憶を留めたが、この戦いに係わりのあつたすべての人にも、程度の差はあれ、冷酷非情であつたと思つた。

敗戦後、日本は明治憲法を全面的に改め、国民主権・平和主義を基調にした日本国憲法を公布した。戦争の放棄を宣言した日本は、他国の人々を殺傷する軍隊を廃し、自国の安全を保つ為の自衛隊を置いて今日に至つた。戦争を永久に捨てて平和をとつたのである。

平和は世界のあらゆる人の願いであろう。しかしながら、現実の世界は必ずしも常に平和ではない。いや、それどころ

か寧ろいつも何処かで、小競合いや撃ち合いや殺し合いが行われている。そして、戦災を受けた人々は飢えや寒さに苦しみ、また傷病苦に喘いでいる。新生日本はこれらの弱者を労り助けて来た。傷病者の為には施設団を送り、土木復旧作業の為に自衛隊を派遣し、食糧・生活用品の不足を見てはその補給に努め、経済大国としての他に抜きん出た援助を惜しまなかつた。これらはすべて人類愛の発露である。世界の各地で、来る日も来る日も戦いの絶えない現実、憤懣やるかたなかつた私は、こんな歌を作つたことがあつた。

人類必ず亡び行くべし国のエゴ  
人のエゴ今地球に瀰漫す

しかし今は、人間の本性の善なるを固く信じて、世界平和の実現を祈らうと思う。この地球上に、根っからの人非人は決していない。戦争のない平和な日々は必ず到来すると信じたい。無論、原爆の如き禁止兵器は、この世から速やかに根絶せねばならぬ。

原爆といえば、私には永井隆博士の名が郷愁のように想い出され、故里人のような親しさで誇りを覚える。博士がその後半生を過ごした長崎の地に、私も三年間の学生生活を送つた。しかし、学窓も違い、お会いしたこともなく、被爆もしていない。にも拘らず、同じ長崎の水を飲み、同じ長崎の空気を吸つたことに同士感を覚えるのである。おまけに、博士の生国出雲は、奇しくも私の姓と同じである。

博士は、一九三二年に二十四歳で長崎医大を卒業、二十六歳でカトリックの洗礼を受け、次いで結婚している。一九四四年三十六歳で医学博士の学位取得。三十七歳被爆、愛妻爆死。「好きで好きでたまらなかつた」放射線の研究を続けて来た為、慢性白血病を病んでいたが、被爆して更に急性白血病に冒される。翌年一月三十八歳で教授となる。七月長崎駅頭に倒れるまで原子野に呻吟する被爆者たちを訪ねて廻る。病床に臥してからも己が肉體を得難い実験台として研究を続け、又、不自由な身で数多くの著書を残す。代表作「この子を残して」は、「孤児予定者」の誠一カヤノの行く末を案じながら書かれたもので、信仰篤い著者は愛人に人の生きて行く正しい道を示し、愛と真実とに生きよと言ひ遺している。出版された時、私は一読感動の余り、着任したばかりの女子高校で、無謀にも教科書そつちのけで何時間も各教室を朗読して廻つた。この本には新米国語教師の純情を激しく揺さぶる力があつた。今、老齢ながら、当時の情熱を呼び戻し、平和の使徒永井隆博士と共に、人類愛と世界の平和を祈念高唱したい。

永井隆平和賞受賞を受賞して

五枚という枚数制限の小論文ですが、六十年前に読んだ永井博士の本が手許になくて、その本探しから始め、入手した本の再読、資料の整理で意外に時間をとり、書き上げる迄にこれこれ二ヵ月位かかつたと思います。

米軍原爆爆撃機エノラ・ゲイの副機長故ロバート・ルイス大尉の投下直後の機中手記の新聞切り抜きを保存していたことが今回の応募の原動力になりました。三年半前にこの記事を読み、有史以来最大の殺戮者にも良心のかけらがあつたことに感動しこの世には根っからの人非人は存在しないという確信を持った私でした。ルイス大尉の言葉：「ああ我々は何をしてしまったのか」は私の小論文のエンジンとも言うべき資料でした。

ところが、論文審査が終わらないうちに広島では事件が起こりました。原爆記念日(八月六日)にエノラ・ゲイ元機長ティベツ(九十才)が来日し、「歴史のあの瞬間、原爆は必要だった。我々は後悔していない。」という血も涙もないような言葉を口にしたので

この言葉は私の性善説とは正に相反するもの、テレビか新聞でこれを知つたであろう論文審査委員にも大きな影響を与えたのではないかと私は推理しました。論文の審査は三回に亘つていて、第一回が八月三日、四日、第二回八月十七日、最終審査八月二十六日となっております。結局、私の小論文は第一位を沖繩の終戦悲劇を扱った作品に譲り、第二位の佳作入賞ということになりました。ちなみに、入賞者の年齢は上位から順に、二十七、八十三、三十一、四十六となっております。最高齢を以つて瞑すべきでしょうか。

夏の疲れが出たのか、パーキンソン病の病状が少し進んだようで、指にも力が入らず字が巧く書けません。今日はこれだけで失礼します。同期会出席の皆さんによりしくお伝え下さい。

平成十七年九月二十日 出雲 正明



平成17年11月23日(北鎌倉「鉢の木」にてご夫妻(中央)とともに)

出雲先生は昭和五十五年(一九四〇年)に三商を退職されました。九州大学教養学部在学中に、一時長崎市内に居住されておりました。三商に二十七年ご勤続され、「三商五十年記念誌」をご編纂された功績が残されています。ご退職後は詩人として造詣の深さを度々の詩集のご出版によって実績を示されております。

このたびの受賞に因み、北鎌倉での小宴を開きました。柴崎晴雄(二十五期)

赴報

ご冥福をお祈り申し上げます

岡野加穂留先生

前明治大学学長

日本国憲法学者 第一人者

三商一五期卒

平成十八年六月七日逝去されました

享年七十六才

お別れの会は七月二十日午後一時

から東京プリンスホテル。喪主は妻

論江さん。

専門は比較政治学。明治大政治経済学部長を経て一九九二年から九十六年まで同大学長。七年間務めた同大ラグビー部長時代には五度、日本一となった。主な著書に「多党制政治論」「政治風土論」など。

(日本経済新聞より引用)

小暮 敏雄 先生

平成十八年四月五日 逝去されました

享年七十七歳。数学に担当。

同窓会総会をはじめ諸会合、同期会

などによくお見えになっておられました。

(三商第一四期卒)



写真は、母校新校舎の竣工記念として、見学会を兼ねた25同期会でご歓談の場面。(前列左) (昭和57年4月18日於「ホテル・デン晴海」)

●岡野先生の記念講演より

岡野先生には、当同窓会の総会にご来賓としてたびたびお招きし、スピーチを戴きました。直近では、前々回の総会時(平成十四年十一月三日、於「テイアラ江東」でした)が、記念講演のテーマは「今日・日本・世界」で、予定の講演時間を超え、司会者の了承を取りながらの熱弁でした。

一九六〇年にストックホルム大学院へ留学、さらに同地にて長期に亘り教鞭をとられた後、米国ハーバート大学でも教鞭をとられる等の国際派の学者としてのご経歴から、講演内容は、主として著名な学者、政治家との会見記でありました。開口一番、憲法学者に相応しく次のような挨拶から始まりました。

『お招き戴いた本日十一月三日は奇しくも「憲法記念日」です。』(この時、満場の聴衆の内、「文化の日」と誤解しなかつた人が何人いたでしょうか?)

氏の曰く昭和憲法(現行の憲法)は、確かに新憲法として終戦の翌年二十一年十一月三日に公布、諸法令が通常六ヶ月後に施行となることから、専門家はその公布日をもって記念日と解釈するのが通例なのです。氏はさらに、

『明治憲法(大日本帝国憲法)は、公布後五十七年にして新憲法とって代わったが、本日ちょうど満五十七年の記念日にあたる。しかしまだ平成憲法は代わらない。憲法調査会(会長中山太郎)に聞く所未だ時間が掛かりそうとのこと。』(実際は今年五月に試案が出たばかりで論議が絶えない。岡野氏のコメントに期待

していた矢先ではあったが……)

『スウェーデンでは明治憲法より七十年も早い一八一七年に「戦争はしない」として憲法が發布されている。昭和憲法はGHQによって余儀なく作られたものであり、改憲については論争も激しい。実際に憲法を運用する若年の世代の人たちに立法案を委ねるべきである。戦争未経験の国としてはデンマークやスイスがある。海に面しないスイスに、なぜか海軍隊がある。』と、ユーモアを交えつつ、「集団的自衛権」とその「行使」の定義について触れていくが、憲法論議の講義が主題ではないので、会場の雰囲気を変える気配りに、『私はよく映画も見ます。「大統領の陰謀」のロバート・レッドフォードやダスティン・ Hoffman、それと女優ではスウェーデン産れのイングリット・バーグマンの大ファンです。』と、聴く耳を飽かさず感激させられました。

紙数の都合で講演の全容をご紹介できませんが、氏は、北朝鮮による拉致事件といったホットな情報にも触れつつ、一貫して平和主義を唱えられ、この日の講演のキーワードとして強調された一言は『何事にも信念を持つこと。』でした。(講演時間 一時間十分)

平成新憲法の具体化を確認されぬまま惜しくも他界された氏に対し、心からお悔やみ申し上げます。また、前頁に奇しくも関連し、『世界平和への願い』(出雲正明先生の受賞論文)を掲載致しました。(事務局 柴崎晴雄)

同窓会総会のご案内

日時:

平成十八年十月二十一日(土)

午後二時

場所:

「テイアラ江東」(江東公会堂)

大会議室及び中会議室

(東京都江東区住吉二丁目)

会費:

五千円 当日ご持参下さい。

(ただし第七十二期、第七十三期卒業生の皆さんは無料)

「招待します。」

作家による記念講演「文学あれこれ」・アトラクション・在校生による「本年度三商祭」のモティーフ・祝宴などを企画した交流同窓会です。

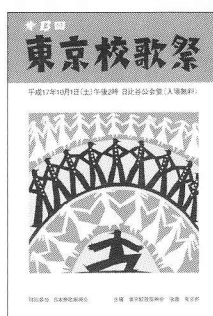
東京校歌祭参加のご案内

第十四回東京校歌祭が今年も日比谷公会堂で行われます。今年には十七校の参加が予定されておりですが、特別参加として日本寮歌振興会より、旧制第三高等学校(京都) 旧制新潟高等学校、旧制東京高等学校、旧制第七高等学校造士館(鹿児島)の四校が参加されます。

日比谷公会堂の壇上で校歌、応援歌を思い切り歌い上げ、我々三商OBの心意気を存分に発揮しようと思えます。百名の大合唱を目指していますので、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。(要項は次の通り)

校歌祭終了後、同期会、クラ

ス会を企画されている期があります。大変おすすめてです。(校歌祭は毎年十月の第一土曜日に行われます。)



記

日時:平成十八年十月七日(土)

場所:日比谷公会堂

会費:無料(終了後反省会を予定しています。会費四千円)

集合時間:十四時三十分

開演は十四時からです。早め

に来て他校の校歌をお聞きにな

ってもよいかと思えます。当校

の出演予定時刻は十五時二十分

(八番目)です。

それまで少し練習します。集

合場所 日比谷公会堂階段の下の

広場(三商の幟が目印)受付を

階段の上で行っていますので必

ず受付を済ませて下さい。

《連絡先》

三商同窓会 校歌祭委員

杉本 光男

電話〇三・三三六三・二二八五

三商の現況が判ります。

ホームページアドレス

www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/

編集後記

同窓会報発行に係わって二回目。昨年は卒業生三期分の発送を手伝いました。今年はずらの見直しを手伝いましたが、原稿がなかなかそろわず、柴崎さんは大変だったと思います。縮切りは守ってほしいと思いましたが、原稿と見比べ、そのままに載せました。

岩瀬和子

平成二十年一月に創立八十周年を迎える我が母校三商、八十年の良き伝統と良き歴史を、その名に恥じぬよう、同窓生の良き模範となる同窓会にと、会報発行にもその決意で。

三浦康二

投稿縮切りの声が小さかったとの非難も。しかし緊縮財政につき、十二頁立てとして割付けが満頁となった処で岡野加穂留氏の計報を知る。氏の関連投稿は来期号へとなるのかを思案中に続々と投稿が無い込み、十六頁に増えた。うれしい悲鳴。編集会議は木戸会長も加わり通算四回を数えた。

柴崎晴雄

七月に入って本当に暑い日が続きましたが、同窓会報の編集に携り、驚いた事に皆さんの熱き気持ちは、暑さの比ではなく一生懸命でした。自分はまだ手伝いが出来なかつたが、大勢の皆さん喜んで読んでもらえる会報だと自負しています。

杉本光男

会計の立場から一言。ゼロ金利政策解除前に校了、印刷へ。見積もりはどうなりましたか？ 安保理ごとく拒否権発動は誰がしますかね。とにかく早く配布したいです。

田端 彰

今号では、母校先生諸氏の異動情報の詳細が掲載できず後悔しています。(四月より) 高石副校長が、前任篠田繁氏に代わり就任されております。

(編集子全員)

『両国の駅のおそばの大関庵  
味も良ければ盛りもよいよい』

そば処 大 関 庵

19期 大 関 守

JR両国駅西口  
国技館通り中程 TEL.03-3631-0728

奥山法律事務所

弁 護 士 奥 山 剛

〒100-0015  
台東区東上野4-4-9-1211 朝日上野マンション  
TEL & FAX 03-3847-6369

親切に、お客様第一に業務を行います。

公認会計士 税 理 士 浅野 修一

(第21期卒)

事務所 〒100-0015 台東区上野1-24-4 丸千第二ビル  
電話 03-3035-2233

ご人数様に合わせた大小個室完備

東天紅 海燕亭 玄遊

東天紅へのご利用

三商の同期会、同窓会、グループ会・宴会等は、  
小泉グループへご連絡下さい。

ご予約

21期卒 KFI 03-3827-0791  
森川 忠へ FAX 03-3827-9321



鶴ヶ谷建設株式会社

〒132-0014  
東京都江戸川区東瑞江1丁目26番13号5階  
代表取締役 鶴ヶ谷 仁志  
電話 03-3679-2121 (代表)

TRADE MARK

三興徽章株式会社

東京都江東区佐賀1-7-10 三興徽章ビル ☎135-0031  
TEL 代表 (3641) 4426  
ファクシミリ (03) (3641) 4414  
バッジ・カップ・トロフィ・記念品  
両国支店・両国ショールーム ☎130-0011  
東京都墨田区石原3-15-4  
ダイアパレス錦糸町第五101号